

なすな はこべら せり すずな おぎょう すずしろ ほとけのぎ
(薺・繁蓼・芹・菰・御行・須々代・仏座)

七種類の芽ぶくれた青物を餅と一緒に煮込んで神仏に供え感謝のお参りをして皆で頂く。
十一日正月は、鉋入れ、田打ち、田畑のしつけ仕事の儀式の後、お飾りを下げ、それを料理して神仏に感謝して皆で頂く。
十四日は小年取りと呼び、家磨き常に掃除をしない所を掃除して繭玉を飾る。繭玉は、田植えを意味し、その後皆で小年を頂く。
十五日正月は15日から17日を小正月と呼び、女正月とも呼ぶ。女、子供が中心で、嫁さんは実家に里帰り、子供の行事が多い為子供は外に里帰りの娘と苦労話を聞く。
二十日正月は終い正月と呼び、繭玉をはずし収穫とし、神仏に感謝し、嫁さん達は収穫物を頂いてそして諭しお土産を持たせて嫁ぎ先



1月のお祝い

誕生日			結婚記念日		
会 員		ご夫人			
本間 重満	1	中條 敦子	2	西山 齊・陽子	1
丸山 達夫	2	齊藤 玲子	3	栄長 隆文・眞由美	8
横田加代子	2	加藤満寿子	9		
大橋 政雄	3	小林 正子	18		
渋谷 義徳	5				
坂本 勝司	7				
堀田 正弘	21				
外山 裕一	31				

* 紙面の都合により1週遅れの掲載となりました。お詫び申し上げます。



に帰る。帰ると天神講と重なり、最後の正月であった。
二月一日は、のど首だんごと呼び、正月の様々なご馳走に区切りをつけ、仕事に従事する。
以上が正月の行事であったようです。
子供達に、正月のイメージを聞くと口を揃えて、お年玉と答えが返ってきました。昔、神仏にお供えしたお餅をお年玉として、分け与えたのが始まりで、いつの間にかお金に代わりお年玉として子供らに与えたようです。
又、俳句では、新年を意味する季語が170前後あります。それだけ日本人の心の中に正月や新年が大事にされてきました。これからも若い人達を初め、神仏に感謝する心を忘れずに、伝統ある日本の正月文化を伝承していただきたいと思います。
更に現在の正月は、農耕文化から経済工業文化が重用視され、変化されていくものと思われます。



国際ロータリー会長
ウィルフリッド J.ウィルキンソン
地区ガバナー
渡辺 敏彦
北クラブ会長
山中 正
幹事
小林 繁男
SAA
安田 貞夫



三條北ロータリークラブ週報

例会日2008. 1. 8 累計 No.1021 当年No.26

例会日:火曜日 12:30 ~ 13:30
例会場:三條ロイヤルホテル TEL 34-8111 FAX 34-8114
事務局:三條市本町 3-5-25 三條ロイヤルホテル内
TEL 0256-35-7160 FAX 0256-35-7488
ホームページ: <http://www.sanjo-nrc.org>
メールアドレス: north@sanjo-nrc.org

会長挨拶

山中 正会長



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
さて、早いもので新年を迎えまして一週間が過ぎました。メンバーの皆様方にはどのようなお正月を過ごされましたでしょうか。私はお葬式の仕事をしておりますので、お正月も、お盆も、大型連休も、土曜、日曜、祭日もございません。

年中無休、24 時間営業を致しております。特にお正月の勤務体制を維持する事に毎年苦慮しております。年中無休は営業システムとしては簡単ですが、そこに24 時間営業がプラスされると私のような零細葬儀社では大変な事でございます。
我が北RCのメンバーの中にも年中無休で24 時間業務体制のお仕事をされている方が多くいらっしゃいます。病院経営の山本理事長さん、タクシー会社経営の西山社長さん、ホテル経営の加藤社長さん、石川社長さん、昇降機の保守管理等の羽賀会長さん、そして笹原住職の要住院さん、等が思いつきます。それぞれにご苦労はございますでしょうか？

さて、お蔭様をもちまして、私の年度も後期に突入いたしました。残されました半年、頑張っ参りたいと存じます。今後、当クラブで予定されております大きな事業としては社会奉仕委員会が今年度事業として取組んでおります『食育の啓蒙活動としての大山のぶ代さんの講演会』がございます。3月22日を予定しております。当日のお手伝いもさることながら、講演会の費用も多くかかります。社会奉仕活動の財源である、スマイルBOXへのご協力もお願い致します。そして、渡辺ガバナーが『R財団・米山奨学の寄付で日本一を目指そう』と言っておられます。クラブとしての協力が不可欠です。両委員会の委員長さんにはいつもご苦労をおかけしております。メンバー皆様のご協力をお願い致します。そして『会員増強』も大きな事業の一つです。本日、三條印刷の渋谷社長さんの入会がございます。心から歓迎申し上げます。私の不徳の致すところ、後ほど幹事報告の中に出てまいります。2名の退会者ございました。会員増強にご尽力頂いております担当委員長さんおよび、積極的に会員増強にご尽力頂いております会員の皆様に誠に申し訳ない

本日の行事:
「新会員入会式」
卓話
「お正月」



「ロータリーの友」
1月号紹介

* 縦組み2頁
「自然のすごさに学ぶ」

* 横組み48頁
「新潟県中越沖地震義捐金に
心から感謝！」
2560地区渡辺敏彦ガバナー

く思っております。会員増強につきましても、メンバー皆様方のご協力をお願い致します。年当初よりお願いばかりのご挨拶となりました。本年が皆様にとりまして、また、我が三条北R Cにとりましても素晴らしい年になります事を祈念し、ご挨拶と致します。



幹事報告 小林繁男幹事

- ・渡辺G B、クラブ奉仕大委員長より
会員増強セミナー開催のお知らせ
日時 2008年2月9日(土) 12:00～
会場 ホテルオークラ新潟 4階
- ・ローターアクト委員長より
第38回地区大会のご案内
期日 2008年3月8日(土)～9日(日)
会場 三条リサーチコア

国際ロータリー第2560地区ローターアクト

感謝の心と柔軟な心

第7回理事会

- 開催日：平成20年1月8日(火) 11:30～12:30
開催場所：三条ロイヤルホテル 出席者数14/14(内委任状4)
出席者：山中 小林(満) 刈岡 安田 佐藤(啓) 小林(繁) 本間(建)
横田 岡田 斎藤(正) 石川(友) 米山(キ) 青柳 星野
協議事項：1. クリスマスパティー決算報告 承認
2. 退会届の件 承認
3. 修正予算案の件 承認
4. 新年会企画案の件 承認
5. 社会奉仕事業《食育講演会》の件 承認
3/22(土)大山のぶ代講演会 例会扱いとし
3/25(火)と振り替えとする
6. 馬場年度地区委員推薦依頼の件 承認
クラブ奉仕・広報委員会委員 駒形 実会員

ニコニコボックス：8日現在累計689,000円

- 渋谷 義徳君 本日より入会させていただきます。今後ともいろいろご指導の程お願い申し上げます。
- 山中 正君 新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。
- 安田 貞夫君 明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。
- 早川 瀧雄君 山中年度、後半がんばってください。
- 羽賀 一夫君 謹賀新年
- 高森 武志君 新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします。

日であり、年神様を迎えて、1年の生活の安泰を祈る、さまざまな儀礼が集中していて、正月が年間最大の祝い月と、されていたと考えられます。

古来正月は中国より渡来したものと思われま

す。日本において、暦が採用されるまでは春と秋の2回の季節感しかなくよう

です。ある本によると中国の史書「魏志倭人伝」は倭国は「其俗不知正歳四時但記春耕秋收以爲年

紀」其の俗(倭国)正歳四時を知らず春耕秋

收を以て年紀と爲す。と書いてあります。す

なわち紀元三世紀頃の日本では、春に耕作して秋に収穫する事をもって年数を数えて、草木が芽を出す春の始めを、年の始めとしていたよう

です。めでたいは、春を迎え全ての植物が芽を出す。芽を吹く。芽が出た。がおめでたいの語源のよう

です。その後暦が採用され、十干・十二支と正式な月・四季となり、仏教の伝来と共に農耕の神と祖先の神を合わせて、年徳大明神を年取神として祭り、感謝と祈りをしたよう

です。地域によっては「正月様」と親しい名前と呼ばれている所もあります。

◎飛鳥時代から平安時代にかけて、宮中で正月行事や年賀が行われたよう

です。祭壇に飾られたのが、餅や赤いご飯(古代米で赤米のこと)のよう

です。当時、餅のことを玉と呼んでいました。玉はのちにお年玉と呼ばれま

す。儀式の後は宴が行われたよう

です。門松については、万葉集の中に70首を越す歌の中に門松を飾る歌は1つも無く、天平16年(744年)正月11日に天智天皇のひ孫で歌人の市原王(いちはらのおおきみ)や大友家持らが参加して、戸外の一本松の下で宴の催しをしていたが、正月の松が特別視されていた面もあるが、松飾りの事は無く。新年に門松を立てた行事は平安時代以前に無かったと考えられます。

◎鎌倉時代から室町時代にかけて、宮中の外

に武士階級の間に正月を祝う儀式が行われている。中でも年賀に来ない武将は、謀反の疑いを掛けられ戦に発展したり、領地を没収された武将もあったよう

です。正月を大正月と呼び、男の正月とも呼んでいました。

◎安土桃山時代から、江戸時代になると、一般民衆の中に正月が考えられ、色々な行事が地域々々の特色をい

かしながら発展していったよう

です。正月は1ヶ月くらい前から準備に入っていました。中でも有名な話がありま

す。正月の準備で、忠臣蔵の話です。赤穂浪士の吉良邸討ち入り前夜すなわち12月13日の夕方大高源吾が「笹や笹」と青竹を担いで売り歩きながら、吉良邸の様子を探る場面がある。その途中、両国橋で俳諧の宗匠宝井其角と出会う。この枝笹のついた青竹はすす払いの為の竹で昼間の売れ残りであ

った。正月の行事は稲作の種蒔。田植えから収穫までが行事の中にのこっています。一

方正月は休みの意味もあります。寝正月、雨降り正月がそれであり、それに目正月も休みの一つである。江戸中期の頃より一般民衆も生活が楽になると色々

と正月文化が生まれ、大人から子供にかけて、一年一回の様々な行事が行われて来

ました。

◎明治時代から今日にかけて、江戸文化の伝承であるが忘年会や新年会は明治になってから官公庁の役人から始まったと考えられます。役人は禄から給料に代わり、他に賞与が出た。賞与で呑んだのが始まり。明治21年生まれの私の孫婆さんから聞いた話によると、正月は五つの正月に分かれ、前から準備した。31日年取りの大晦日は煤を払った部屋で家族全員で、年取神様にお餅を供え年を頂き、おせちを食べる。

一日は正月、年の始め、元旦という。1日から3日間大正月、又は男の正月で、お宮、お寺様に年賀の礼をつくしご年始を持参してお参りに行く。

七日正月は、七草と呼び、雑煮を頂く。七草